

5月1日、5日 パプアニューギニア、ニューブリテンの地震

2015年5月1日17時06分（日本時間、以下同じ）にパプアニューギニア、ニューブリテンの深さ57kmでMw6.8の地震①が、5月5日10時44分に地震①の南南東約40kmでMw7.5の地震②が発生した。これらの地震は、共に発震機構（気象庁によるCMT解）が、北北西-南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、インド・オーストラリアプレートと太平洋プレートの境界付近で発生した。

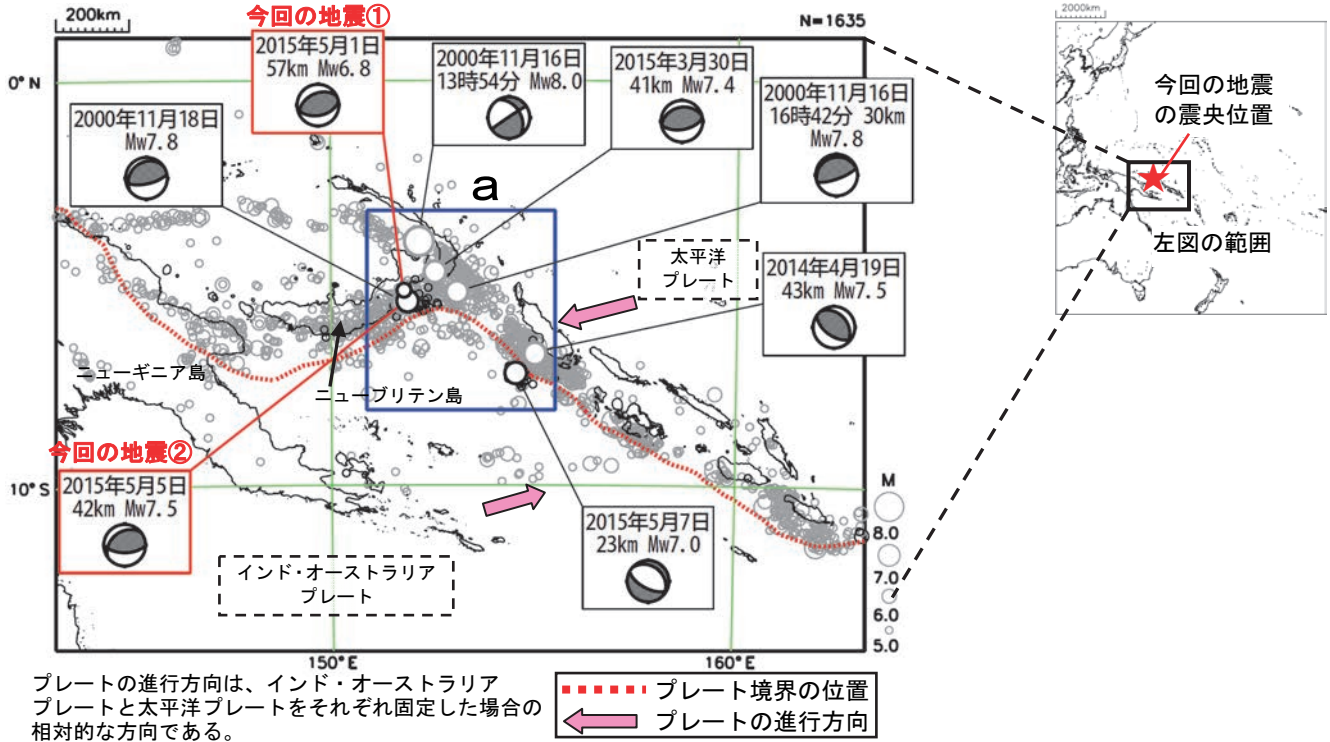
今回の地震①、②の震央付近（領域b）では、2015年3月30日にMw7.4の地震、4月30日にM6.7の地震が発生するなどM5.0以上の地震が42回発生している。

2000年以降の活動を見ると、地震①、②の震央周辺（領域a）では、2000年11月16日にMw8.0、Mw7.8、11月18日にMw7.8の地震が連続して発生し、11月16日のMw8.0の地震では、死者2人、住家被害多数の被害を生じている。

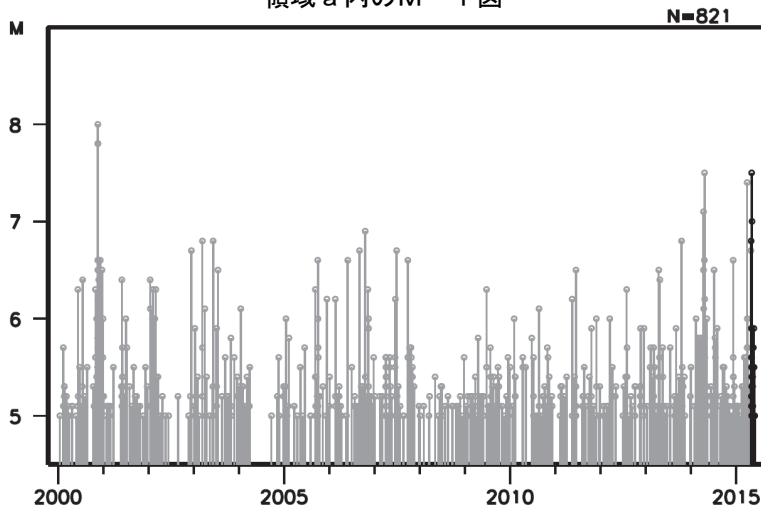
1970年以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺では、M7.0以上の地震が頻繁に発生している。

なお、気象庁は、地震①について、5月1日17時36分（日本への津波の影響なし）、地震②について、5月5日11時14分（日本への津波の有無について調査中）と同日11時51分（日本への津波の影響なし）に遠地地震に関する情報を発表した。

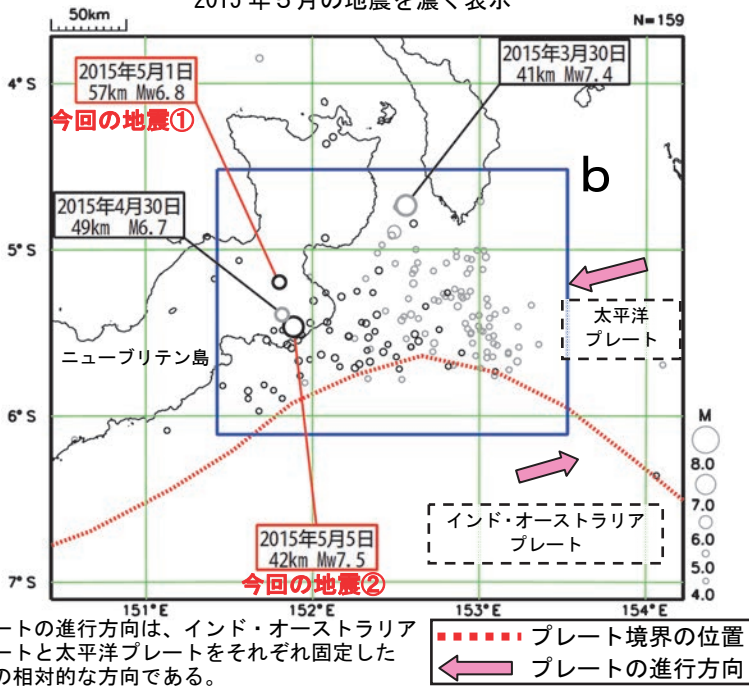
震央分布図
 (2000年1月1日~2015年5月31日、深さ0~100km、
 M \geq 5.0) 2015年5月の地震を濃く表示
 図中の発震機構はCMT解



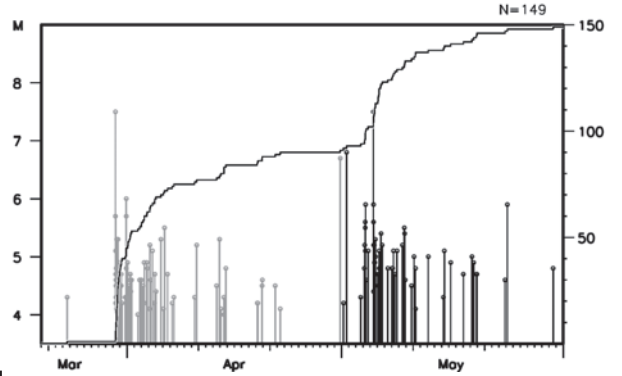
領域 a 内の M-T 図



震央分布図
 (2015年3月20日～2015年5月31日、
 深さ0～100km、M≥4.0)
 2015年5月の地震を濃く表示



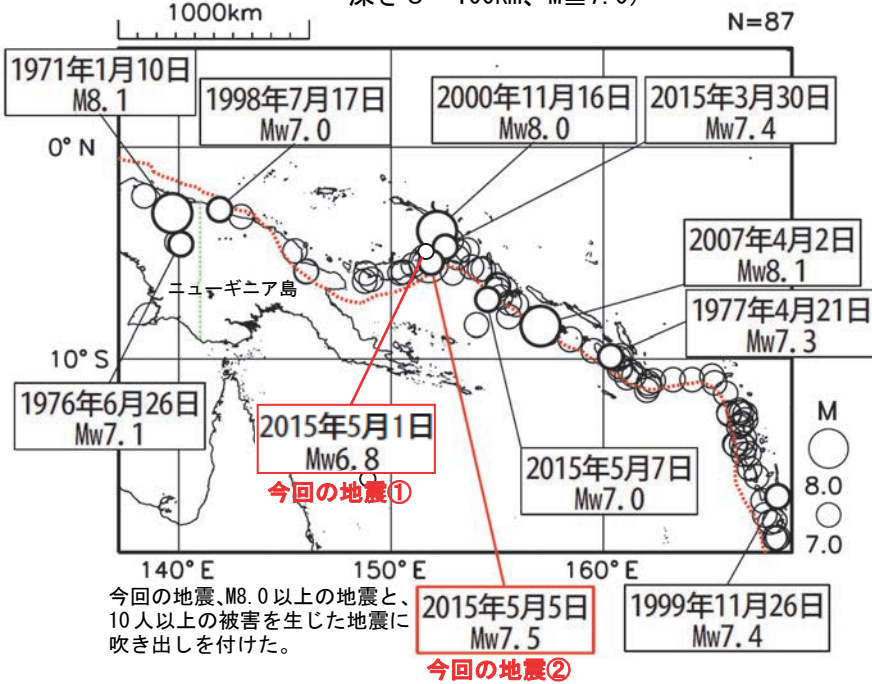
領域 b 内の M-T 図及び回数積算図



プレートの進行方向は、インド・オーストラリアプレートと太平洋プレートをそれぞれ固定した場合の相対的な方向である。

● プレート境界の位置
 ← プレートの進行方向

震央分布図
 (1970年1月1日～2015年5月31日、
 深さ0～100km、M≥7.0)



今回の地震、M8.0以上の地震と、10人以上の被害を生じた地震に吹き出しを付けた。

● 今回の地震①
 ● 今回の地震②

※本資料中、今回の地震①、②及び2009年以降の発震機構とMwは気象庁による。1976年以降の地震の発震機構とMwはGlobalCMTによる。その他の震源要素は米国地質調査所 (USGS) による (2015年6月1日現在)。過去の被害は、宇津及び (独) 建築研究所国際地震工学センターによる「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置と進行方向はBird (2003) *より引用。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.